



# かれんと

## 女も男も

## のびのびと

私たちは、暮らしの中で無意識のうちに「女性らしい」「男性らしい」と考えられている言葉遣いや振舞など、さまざまな慣習を身に付けて成長してきました。

こうした「女性は…のように、男性は…のように」と文化的・社会的に作り上げられた性別を現す言葉として「ジェンダー」が使われています。

私たちは、「ジェンダー」によって、生き方を狭めてはいないでしょうか。

これからは、誰もが性にとらわれず、自分らしくのびのびと生きられる社会にしたいですね。

### 主な内容

- さわやか家族
- 女性の海外研修に参加して
- 日本女性会議'96 うつのみやに「鹿沼アテップ」参加

ジェンダー [gender]

ラテン語のゲヌス (genus) あるいはフランス語のジャンル (genre) に由来する言葉。

(集英社「イミダス」より)

# さわやか家族

平成8年12月実施の「かれんと」アンケートにご回答いただいた中から、次の4家族の方にインタビューしました。

## 自分のことは自分で

村井町 斉藤和子さん(47歳)とご家族



父親が亭主関白で、母親が苦勞しているのを見て育った夫の隆司さんは、自分のことは自分でやろうと思って、その習慣を身に付けてきました。独身時代はもちろんのこと、結婚してからもそれは続いています。和子さんは、共働きだから、夫が協力するのは当たり前のことと思っていました。

5年前、和子さんの父親が亡くなり、それを機に母親と同居することになりましたが、夫は今までどおり、自分の事は自分でやっています。下着など小物は入浴中に洗い、ズボンなどは日曜日にまとめて洗います。干すのも、たたむのも、そしてアイロン掛けも自分でやるので、妻は、ほとんど手を出すことはありません。昨年12月に母親が交通事故で足を痛め、それからは隆司さんが昼休みに帰ってきて、昼食の世話もしています。

家の中や庭の手入れなど気が付けば言うより先に動き出す夫。妻が持ち帰った仕事を夜中まで手伝ってくれる夫。今、和子さんは、改めて感謝しているといえます。

ハイキングという同じ趣味で知り合い結婚した二人は、人生を共に生きるパートナーとして認め合い、今でもお互いを名前で呼び合う友達夫婦です。

## 家庭は夫婦の協力から

上材木町 田野井輝恵さん(55歳)とご家族

「私たちは、お互いに人間として認め合い、協力し合って生活してきました」と輝恵さん。

長年乳幼児教育に携わっていた輝恵さんは、現在、学童保育のために自宅を開放しています。

今、同居の家族は、夫の三郎さんと夫の妹の三人。

「子どもの幼かった時期を除いて、ずっと働いてきました。夫も家事に協力的で、息子の遠足・お遊戯会なども夫が出席してくれました」

夫が家事をすることに対し、「ご主人が家事をするんですか?」と、非難するような声もありましたが、「ええ、やってくれます」とさりりとかわしていました。

現在、学童保育の運営に、夫も積極的に関わり、輝恵さんの力強い味方です。

「多くの子どもと接する中、子育ては家族だけでなく地域の方たちの支援が大きく影響することを実感しています」と地域の方たちの温かい援助にも感謝しています。

息子さん夫婦は、独立した世帯を持っていますが、両親と同じように、共働きを続けながら協力して子育てをしています。



## 家事は、その時、できるほうがやります

白桑田 T子さん(64歳)とご家族

「苦しいことも、悲しいことも、共に背負って乗り切ることが出来る存在」と、夫を語るT子さん。共働きだったお二人ですが、定年退職後、夫は家庭に入り、妻は、自身を生かす職場を得て、再就職しました。夫は、毎朝、妻を職場に送り、時々保育所への孫の送迎も引き受けています。夕方、夫は夕食の準備をしながら、おいおい戻ってくる妻や息子夫婦の帰宅を待ち、孫も加えての賑やかな食事を始めます。

初めての子どもが生まれた時、夫は、真冬でも川でおむつ洗いをしていました。「家事は出来るほうがやってきました」とおっしゃるご夫妻は、永年の信頼と協力関係に無理がなく、素敵なパートナーシップぶりです。「今までは、当たり前のように感じていたけれど、第二の人生を迎えてまわりを見回した時、自分のおかれた状況の素晴らしさに気付きました。これからも、そのことを大切にしたいと思っています」とのTさんのお話でした。

# 夫も家事、自然にやっています

上南摩町 青木富美枝さん(28歳)とご家族



ぼっか、ぼか南向きの斜面に、ゆったりと居を構え、60数頭の乳牛や和牛を飼う酪農家の青木さんご一家。今では珍しく、うらやましいような四世代家族です。おばあちゃんの体調がすぐれない他には皆さん元気で、82歳のおじいちゃんも現役。今も中ばあちゃんの弘子さんと、中じいちゃんの精一さんと共に牛舎で働いています。

富美枝さんは2歳になる娘の美波ちゃんに続いて、二人目のおめでたをひかえており、体調の良くない時は、夫の昭彦さんが朝食作り。ポテト料理が得意で、とても美味しい、とか。何の気負いもなく自然体です。家族で酪農に取り組む青木さん一家にとって、病気のおばあちゃんを、週一度迎えに来てくれる特別養護老人ホームの入浴サービスは、大助かり。これからの超高齢社会を迎え、新旧世代の同居に新システムの導入は、欠かせません。

若い人の提案も柔軟に受け入れる、ご両親の前向きの姿勢が、家庭円満のもととなるのでは、と、お見受けしました。

## 女も男も

自分らしく、のびのびと生きてみませんか？  
さあ、次の質問に答えてみましょう。

「はい」に○をつけてください。

1. 「男は仕事」「女は家庭」と固定した考えをもつのはよくない
2. 介護・家事・育児も男女が協力し合う
3. 性にとらわれずに個性に応じた生き方をするのはよいことだ
4. 学校で男子も家庭科を学ぶのはよいことだ
5. 「女だから」「男だから」と強いるのはよくない
6. 「女性だから」とあまえるのはよくない
7. 女性も経済的に自立した方がよい
8. 女性も男性も地域や社会で活動するのが望ましい

「○」の数はいくつでしたか。

8～6コ

**青**

これからも素晴らしい家族関係を続けていってください。

5～3コ

**黄**

努力して平等な家族関係を築いていきましょう。

2～0コ

**赤**

性別にこだわり過ぎては、お互いの力を発揮できません。

## 100人に 聞きました

### あなたにとって どんな存在？

#### 夫にとって 妻は

- ①一生のパートナー
- ②お互いに支え合う存在
- ③かけがえのない人
- ④世界で一番大事な友人
- ⑤家庭を明るくしてくれる人
- ⑥自分のことを一番心配してくれる人
- ⑦人生の向上のためのパートナー
- ⑧ライバル

#### 妻にとって 夫は

- ①大切な友達
- ②支え合い、高め合う存在
- ③一番信頼出来る人
- ④家の大黒柱（生活をしていく上での収入源）
- ⑤頼り甲斐のある、なくてはならない人
- ⑥いざというときの心のよりどころ
- ⑦何でも話のできる人
- ⑧よき理解者

(平成8年12月「かれんと」アンケート)



# 女性の海外研修に参加して

茂呂 神山 寿子

1996年度「栃木県女性の海外研修」に参加し、10月8日より12日間、ニュージーランド・オーストラリアを訪れ、様々な施設・機関を訪問しました。

ニュージーランドのクライストチャーチでは、女性の参政権獲得運動について学びました。その運動の中心となったケイト・シェパードさんは、29,000人ももの署名を集め、270mにも及ぶ請願書を国会に提出し、1893年世



界で初めて女性の参政権を得ることができたのです。女性参政権獲得記念碑(写真)には、ケイトさんを含めた6人の女性が請願書を運ぶ凜々しい姿が刻まれています。

女性が国民の一人として、政治に参加する権利を得るまでの長い道のりを知り、権利に安住することのないよう決意を新たにしました。

環境保護の重要性も改めて考えさせられました。

シドニーで訪問した、マックレーハイスクールでは、授業の中だけでなく、毎日の学校生活の中でも、積極的に環境問題に取り組んでいます。また、ブルーマウンテン国立公園では、自然を守るために、人々を教育することを重視していることに感銘を受け、日本でも環境保護にもっと積極的に取り組むべきことを感じました。

南半球ではオゾンホールも切実な問題です。身近な環境汚染が、地球規模の問題を引き起こしていることに目を向けなくてはならないと実感しました。

## 日本女性会議'96うつのみやに「鹿沼アテップ」参加

「日本女性会議'96うつのみや」が10月14日から16日までの3日間宇都宮市文化会館を主会場にして開催されました。宇都宮市の市制100周年の記念事業の一環としての取り組みでした。

第1日目はシンポジウム、2日目は分科会、3日目は英国前首相のマーガレット・サッチャーさんの講演があり、全国から大勢の参加がありました。

初日には、女性団体の活動状況を紹介し、女性会議参加者との意見交換の場を提供する「ワークショップ」が文化会館野外の“ときめき広場”に設営され、県内から10の団体が参加しました。

鹿沼市からは女性の地位向上をめざして自主的に活動しているグループ「鹿沼アテップ」が参加し、活動状況を発表しました。当日は雨にもかかわらず大勢の見学者が訪れ、展示したグラフや掲示物を熱心にのぞき込んだり、質問したりする姿も見られ、用意した資料も瞬間になくなるほどの盛況でした。

※日本女性会議は、1975年の「国際婦人年」・「国際婦人の10年」を踏まえ、女性問題解決への取り組みを促進するため、1985年に第1回会議が名古屋市で開催され、今年で13回になりました。



### 意見文・標語の入選

9月25日号の「かれんと」で豊かな男女共同参画社会をめざす意見文・標語の募集を行いました。

選考委員6名による厳正な審査の結果、次の方々が入選し、去る1月29日、教育長から表彰を受けました。

- 意見文 「自分育て」 上日向 板橋和子さん
- 「家事は誰のために」 茂呂 神山寿子さん
- 標語 「今光る女と男共に生き共に参画輝く未来」 見野 松永芳子さん
- 「両性が心をひらき手をとって共に参画ゆたかな社会」 見野 松永 勉さん



明快・簡潔な文章を、と言うは易し。的確な言葉選びの難しさを痛感しました。

齋藤 満子 (日吉町)



明快・簡潔な文章を、と言うは易し。的確な言葉選びの難しさを痛感しました。

齋藤 満子 (日吉町)



明快・簡潔な文章を、と言うは易し。的確な言葉選びの難しさを痛感しました。

齋藤 満子 (日吉町)



明快・簡潔な文章を、と言うは易し。的確な言葉選びの難しさを痛感しました。

齋藤 満子 (日吉町)

●昨年12月、国会訪問の機会を得、衆議院本会議での代表質問や首相の政府答弁を傍聴し、議員席の様子も目の当たりにしました。現在、衆議院の女性議員数は、五百名のうちわずか23名です。「女性を政策決定の場に送り出す」重要さを肌で感じ取りました。

●「かれんと」10号。創刊以来5年経ちました。今後も身近な情報紙づくりをめざしたいと思っています。

ボランティア編集員

